



ナビー喝で一時険悪ムードも…素直に謝りその後はミスなくゴール

「今日のコースはモーリタニアのブッシュみたいだつた。ただひとつ違うのは、印象になるものが少なく、ナビゲーションが大変だったことかな。とても楽しく走れたよ」

すっかり日が落ちてからスコータイに到着した篠塚は、好々爺（や）のようなく笑顔で一日を振り返った。一つヤマ場を乗り越え、総合2位で後半戦に挑む。

長い一日を味方につけたシーンを振り返った。道なき道を突き進むラリーレイドはドライバーとナビゲーターの共同作業。狭い車内で互いの信頼関係が失われれば結果に大きく影響する。1997年のダカールラリーで日本人初制覇したペテラン。そんな基本を十分に理解しているからこそ自ら怒りを鎮め、素直に頭を下されたのだろう。

◆アジアクロスカントリーラリー4輪部門◆
(8月11日/レグ3/380・75km/S S=181・35km)

順	ドライバー	マシン	タイム(差)
1	N・アングリットハノン	いすゞD-MAX	7時間44分39秒
2	篠塚建次郎	スズキ・ジムニー	47分36秒
3	S・スリチヤロエンシブル	トヨタ・ヴィーゴ	2時間07分49秒
4	B・ブシタ-ヌンタルク	フォード・レンジャー	2時間26分11秒
5	C・オンスリ	三菱トリトン	2時間30分13秒
6	伊藤 芳朗	いすゞD-MAX	2時間34分15秒
8	塙 郁夫	トヨタFJクルーザー	4時間37分27秒
9	浅井道浩	いすゞD-MAX	4時間37分35秒
11	青木拓磨	いすゞmu-X	4時間41分01秒
18	竹野悟史	スズキジムニーセリ亞	8時間57分02秒
22	青木孝次	三菱アウトランダー	13時間47分14秒
25	新井敏弘	いすゞD-MAX	25時間32分04秒